

第6回古都保存懇談会における主な指摘事項

1. 歴史展示の推進における筋道が不明確

- ・歴史展示における国・県・村の役割分担の明確化など

・歴史展示について、誰が推進するのかがいつも気になる。これだけの資産があるので、県と村と国がまとまって発信等々にどう取り組んでいくのか、筋道ができていないところに1つ大きな問題がある。

2. 明日香の歴史的価値を表現するシナリオが必要

- ・日本国発祥の地、明日香ならではのシナリオ、ブランディング、ストーリーづくりなど

・まるごと博物館はどこにでもあるプランでとても残念。日本国発祥の地として、ドイツのオーバーアマガウ村のキリスト受難劇と同じくらいのシナリオを大きな目標としてあってもいいのではないか。

・東アジアの混沌とした時代の文化の中で、日本の東アジアの原点とはどこかと思うような明日香の売り物を表現するようなシナリオやブランディングが考えられる。

・創造的活用はいい支援制度。農業や地場産業を含め、計画論としてどういう広がりを持って創造的活用が情報発信力を持つのか、単純に人が米を持って帰るのではなくて、明日香からのストーリーを持って帰るくらいのものがあってもいい。

3. 明日香らしさが感じられる歴史体験づくりが必要

- ・明日香ならではの体験型ツアーや歴史学習等による明日香の歴史的価値の認識向上など

・古民家での生活、自転車での周遊、田植えへの参加など、ストーリーを作って体験型のツーリズムができると、そこから歴史に入っていくと思うし、歴史的なものにも価値が出てくるのではないか。

・農家民泊や修学旅行へのプラスアルファとして、まさに他にはない明日香に泊まったという証があって、地元学や飛鳥学がきちんと体験できるという。

4. 若者を引きとめるための基軸や仕掛けづくりが必要

- ・若者を引き止めるために基軸とする業、明日香でしかできないことを活かした定住施策など

・人口が減少している状況で、若者を引き止めるためには何が必要で、将来的に何を基軸にしていくか。観光か農業生産か、それ以外に経済的な何かを持ってくるか、その辺りが良く見えない。

・創造を膨らませるような明日香にしかできないことをやろうとする人たちを集めて、集住させる仕掛けがあってもいい。

5. 土地利用規制が生み出す価値を活かした前向きなビジョンが必要

- ・土地利用規制による日本古来の農村風景をポジティブに捉えた前向きなビジョンの形成など

・段々畑の彼岸花を撮影する写真家や直売所に来るお客さんは恐らく増えているのではないか。土地利用規制は厳しいと思うが、それが生み出している価値を認める人は結構いるのではないか。

・周りに決して変なもの建たないし、昔ながらの日本古来の農村風景が守られている。そこをもう少しポジティブに捉えて光が当たるようなデータを組み立てていくと、前向きなビジョンが描けるのではないか。

6. 国内外の旅行者にとって分かりやすく魅力的な情報発信が必要

- ・表示板・HP等の多言語対応、HPの内容と見せ方など

・古代の歴史を分かりやすく展示して、英語や仏語で解説したような施設がない。飛鳥という場所がどういう場所かを今後外国に向けてPRしつつ、近畿地方に縁がない人にも全体像が分かるように国や県に頑張ってもらわないといけない。

・写真を使って外国人に分かりやすいサイトをもっと作ったほうがいい。彼岸花の赤と周囲の緑とのコントラストがとてもきれいであるし、色々な形の案山子は外国人にはとてもおもしろく感じると思う。

・入りたいと思わせる魅力的な建物写真がない。外国のHPのように、大きな石や壁画を強調して見せるなど、中にある魅力的なもののポイントを前に出して、それを見るために、この建物に行くという誘導になるのではないか。

7. 明日香村民が大事にするものを活かし関わりたいと思える仕組みが必要

- ・神事や祭りなど村民が大事にする生き方や活動等に村民自らが主体的に関与する枠組みの構築など

・神事や祭などしっかりとした核がある中で、住民が生き生きと自分たちの生き方や活動に自信を持ち、それを理解して関わりたいと思う人が入れる枠組みや仕組みを考えていくと、明日香の素晴らしいものをもっと生きてくる。

・お金がなくて、人が来なくても明日香として大事にするものが前面に出てくるようになればいい。